

「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取組分野：【食】【交流】【知的財産権】

1. 都道府県、市町村 じょうえつし 新潟県上越市
2. 事業者名 農事組合法人 雪太郎の郷
3. 取組みの名称 特産の大根づくりに「女、男共同参加」で集落活性化
4. 取組概要等

概要

昭和63年、宇津俣生産組合を設立。高齢農家・不在地主の農地管理・農作業受託等による耕作放棄地の発生防止に努め、集落の減反を一手に引き受け、個々の農家だけでは難しい園芸に共同で取り組むことで収益を生み出している。この地域の農業分野で初の時給制を採用、家庭の事情で短い時間やごく短期間しか参加できない女性や高齢者が働きやすい雇用体制を確立。特に主力品目の大根は女性の力に依る部分が大きく、農家の女性の収入の増加が女性の地位向上に追い風となっている。

平成3年より加工場を開設。生産だけでなく地元の農産物の加工場を活用して加工・販売にも力を入れ、**日本で初の『大根ジャム』も生み出すなどの、特産品開発を進める。**

地域に伝わる民話「雪太郎伝説」から主力品目の大根を「雪太郎大根」と名付け、また大根料理集を作成したり、雪太郎のキャラクターを募集して作成して商標登録をおこなった。

地元で行われるイベントだけでなく**県内の他地域のイベント、東京でのイベント等にも積極的に参加し消費者交流に力を入れ、女性を主力にPR活動を行い、雪太郎大根の知名度向上を図っている。**その際、必ず生の大根を食べてもらい、おいしさを実感してもらっている。

田舎体験・農業体験(「越後田舎体験」、「雪国いって見体験」など)の受け入れを行い、他の地域では少ない稲作以外の体験メニューを多く用意、また多くの家庭が宿泊の受け入れに協力している。東京のデパートや地元のホテル、スーパーなど独自の販売先を開拓し有利販売に努め、また、地域での越冬用の大根の宅配も行う。

「雪太郎大根」を核とした多種多品目の栽培と、リスク低減や作業時期が集中しないよう配慮し、加工品作りと合わせ周年の作業を確保。ほほえみ荘や地域の温泉施設などと連携して、経済的な波及効果を生み出し、平成14年には、「豊かなむらづくり全国表彰」で農林水産大臣賞を受賞するほか、平成17年には「新潟県農村振興アメニティーコンクール」優秀賞を受賞。平成18年、宇津俣生産組合を母体として、農事組合法人雪太郎の郷を設立する。

活動の規模

項目	H13	H14	H15	H16	H17
生産量	60	60	60	60	70
解説	単位：t 特産の雪太郎大根の生産量				
売り上げ	7,200	10,080	9,730	10,070	9,800
解説	単位：千円 宇津俣生産組合				
来客数	350	400	400	630	600
解説	単位：人 農家民宿 ほほえみ荘				
イベント回数	4	4	4	4	4
解説	単位：回 大根小学校(年3回)、雪太郎大根いっぺごと祭				
耕作面積	5.58	5.7	5.7	5.7	5.7
解説	宇津俣生産組合(借地)(単位：ha)				
作業受託	10.1	10.8	11.5	11.5	11.5
解説	単位：ha 宇津俣生産組合(田、田植え・稲刈り等)				

活用している地域資源

- ・人材(地域の女性・高齢者の活用)
- ・地域に伝わる民話の『雪太郎伝説』
- ・雪太郎大根という特産品
- ・白峯山菜加工場という施設
- ・信越トレイルなどの景観
- ・農家民宿ほほえみ荘と『どぶろく』
- ・市直営『湯の里深山荘』と鷹羽鉱泉の温泉施設

地域活性化のポイント

- ・地域の女性の参画
- ・**女性及び高齢者の働きやすい雇用体制づくり**
- ・大根小学校、大根いっぺごと祭といったイベントの開催
- ・「越後田舎体験」等の体験事業(民宿、農作業、食体験)の受け入れや都市の交流事業の実施
- ・県内外から農業研修の受け入れ
- ・生産から加工・販売まで行い、周年の作業を確保による農業所得の増加
- ・どぶろく特区による集客数の増加
- ・**県外から若者の新規就農**

事業の今後の展開方向

- 1.農事組合法人設立による農地及び資源の有効活用
- 2.担い手育成(若者、団塊世代)
- 3.加工品目の拡大、販路の更なる開拓
- 4.農業・農村体験、研修の受け入れ推進
- 5.経営の安定化

